

授 業 科 目 名		担 当 教 員 名	授 業 実 施 日	※
境界を越える歴史教育		近藤 孝弘 准教授	5月26日(火)	
学 生 番 号		学 部 ・ 学 科	学 年	氏 名
0	3	法	1 年	山崎 麻由

“教科書は最も強力な洗脳だ。” 高校生のとき、通っていた塾の講師が
 言ったこの言葉を、私は忘れられずにいる。私達は教科書から歴史を
 学び、それが正しく、真実であると信じる。しかし、日本から1歩外に出れ
 ば、それは真実として通用しなくなる。日韓では従軍慰安婦など、また
 日中には南京事件などの歴史問題が残されている。教科書から学ぶ歴史
 はあくまで与えられたものであって、自発的に学ばない限り真実は見えな
 いと考えていた。しかし、この講義で知った『ドイツ・フランス教科書』は、
 真実を告げる教科書であると思った。何年に何がどのように起きたか
 という真実というよりは、「2カ国間の歴史観には差異がある」という真実
 を語っている。1国の中での教科書改善には限界があり、この講義の名の
 通り歴史教育は教育の枠を越え、政治や経済と複雑に絡み合い、問題
 をさらに難解にしている。また、共通教科書を作成するにしても、翻訳の
 困難など様々な課題に直面した。しかし、その限界を見つめることこそ
 重要であり、課題を浮きぼりにすることこそ意義があるのだと考える。
 自国の立場で暗い歴史を見るのでさえ容易ではないのに、他国の立場から
 それを捉えようとするのは更に難しい。この教科書はそんな別の視点から
 歴史を学ぶ貴重な機会を与えてくれるものだ。欧州の例をそのままアジアに
 当てはめることはできないが、歴史教育の問題点を明らかにし、歴史観を
 共有していくことは、アジアにおける日本にとって重要なことである。